

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892300043		
法人名	株式会社やすらぎ		
事業所名	グループホーム松風		
所在地	兵庫県三木市吉川町有安303		
自己評価作成日	令和 6年 12月16日	評価結果市町村受理日	令和7年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201
訪問調査日	令和7年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「笑顔あふれる家族」を達成するために、明るい家族的な雰囲気の中で職員ひとり一人が笑顔忘れず、ご利用者様の心からの笑顔を引き出せる様接している。また、当施設は大自然に囲まれた中にあり、日本で環境の一番良い場所に位置している。施設内の畑では四季折々の野菜を作っている。ご利用者と収穫や料理などを行うことによって、作る喜び食べる喜びを感じていただいている。ご利用者様ひとりひとりの思いを大切に、その人らしく安心して心穏やかに過ごしていただけるように配慮し支援している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな田園地帯にあって、約1000坪の広い敷地には四季折々の花が咲く花壇や野菜畑がある。昨年末からアニマルセラピーと雑草対策のために2匹のヤギの飼育を始めた。愛らしいヤギたちは早くも利用者を癒すだけでなく、小さな子ども連れの家族や地域住民の人気の的になっている。平屋の建物はリビングをはじめどの部屋にも明るい陽射しが注ぎ、自分らしく設えた居室で過ごす利用者も多い。職員は「笑顔 あふれる 家族」の理念を大切にして、利用者一人ひとりに寄り添いケアに当たっている。「たとえ会話が難しくなっても利用者さんの横に座って話しかける」という職員もいる。また、地域の保育所の園児や音楽ボランティアの訪問を受けている。リビングでは利用者や職員、ボランティアが弾くピアノの曲に合わせて歌声が聞こえることも多い。先代から事業を受け継いだ代表者と管理者は、利用者や家族、職員、地域住民の声に耳を傾け、積極的に業務改善に取り組んでいる。ゆったりゆっくりと時間が流れる穏やかな環境の中で、これからも“進化”し続けていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔 あふれる 家族」の理念をホーム内に掲示し、職員が常に意識し実践できるようにしている。ホームに関わる全ての方に思いやりの気持ちで接するように心がけています。	味わいのある毛筆で表現した理念を額装して玄関ホールに掲げ、パンフレットにも載せている。管理者や職員は「笑顔 あふれる 家族」という理念を大切に、運営やケアに反映している。創業時からあるこの理念は、職員の提案で一度見直された後、復活した。見直しは全職員が改めて理念について深く考えるよい機会になった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しています。年1回の夕涼み会の実施。月1回のパンの移動販売の実施。地域の方に月1回ボランティア演奏等の来ていただいている。地域の呉服店でスタッフのユニホームや入居者様の衣類を購入している。今年度は夕涼み会は中止であった	自治会に事業所として加入し、地域の行事やイベントに協力している。必要な衣類や日用品の購入、訪問美容等も地域の商店や企業を利用するようにしている。運営推進会議には地区長や民生委員が参加し、情報や意見交換を行っている。地区長は事業所の防災避難訓練にも参加している。コロナ禍で中断していた地域の認定こども園との交流やボランティアによるコンサートが再開した。来年度は家族や住民も参加できる事業所の恒例行事「夕涼み会」の復活開催を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症介護のことでお困りの方はご相談ください」と、地域の広報誌等の記載し呼びかけている。以前は、地域の会合に出席して認知症に対する理解を深める活動をしていました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、定期的に運営推進委員会を開催し、活動報告・ヒヤリハット報告・情報交換を行い、出された意見を参考に改善できるよう取り組みサービス向上に生かしている。ご家族も順番にご参加して頂いて施設のご様子を見ていただいている。今年度はボランティア演奏の方にもご参加して頂いた。	隔月に開催する運営推進会議には利用者と家族が持ち回りで参加し、外部からは地区長、民生委員、地域包括のほか地域内のグループホームの担当者が参加している。事業所から代表と管理者、ケアマネジャーが出席している。会議では事業所の利用状況や行事、事故・ヒヤリハット報告等も行い、意見交換している。議事録には上った意見等を記録し、職員間で情報共有している。	参加していない家族等に議事録を送付することが望まれる。また、会議には職員も持ち回りで参加してはいかかでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で定期定期に情報を交換する機会がある。現在も、随時、不明なことがあれば電話やメールで問あわせ連携をとっている。	地域包括の職員とは運営推進会議を通じて意見交換を行い、活発に情報共有している。市の高齢介護福祉課とは必要時に電話等で連絡や相談を行っている。市のグループホーム連絡会に加入し、同業者とも意見交換を行っている。	

自己	者第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在も、玄関・門にセンサーを設置し、安全に過ごしていただけるように配慮している（夜間は、防犯の為施錠している。ご利用者様の言動に留意し対応している。日中の時間帯は玄関を開錠しており、18時から9時まで施錠している。身体拘束をしないケアを目指している。	身体拘束廃止の指針がある。代表・管理者・ケアマネジャー・職員で構成する委員会をつくり定期的に開催している。また、職員研修も年2回、実施している。委員会や研修ではセンサーマットの使用状況等についても話し合い、チェックしている。職員は研修後に気付きや感想を含めたレポート提出を行い、内容の理解を深めている。玄関は日中開錠しているが、広い敷地の門扉はセンサー管理、もしくは施錠している。帰宅願望のある利用者には制止せず、職員が付き添って外出するように努めている。	研修後のレポートに管理者からコメントを付けてフィードバックされてはいいかでしょうか。双方向のやり取りは職員のモチベーションアップにもつながるのではないかな。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者や認知症についての考え方を学び、言葉一つが虐待になるとミーティングを利用してスタッフと共有した。	身体拘束廃止と合わせて虐待防止の指針をつくり、身体拘束廃止と同様に委員会活動や職員研修を実施している。委員会や研修では、スピーチロックを課題に掲げることが多い。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用	現在成年後見人の制度利用されている方がおられ、ご担当の方と密に連絡を取りれんけいしている。施設内にリーフレットを設置し、ホームへ来られる方への制度の情報提供も行っている。	司法書士を成年後見人として制度を利用する利用者が1名いる。同成年後見人に依頼し、事業所内で他の家族等に向けた簡単な成年後見制度講座を実施した。玄関ホームに三木市成年後見支援センターが発行するパンフレットを用意し、家族等に案内している。職員もミーティングの中で制度について勉強し知識を有している。	家族等に提供できる情報として、成年後見制度だけでなく日常生活自立支援事業についても職員間で概要を掴んでおいてはいいかでしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居希望の方には松風に居住環境確認の為見学して頂いている。ご本人が来られない場合でも、面談という形でお会いさせていただき、ご入居時に必要なものをご用意させて頂けるようにしている（歩行器等）。契約書・重要事項説明書をわかりやすく説明し、不安や疑問点を確認を行い、理解していただけるよう取り組んでいる。報酬改定の際には、改めて説明し同意を得ている。	契約の際は可能な限り利用者や家族に対して事前見学を実施している。契約時は事業所内で管理者が対応し、重要事項説明書と契約書の内容を全て読み上げ2時間ほどかけて分かりやすく説明している。特に質問の多い金額面や退所条件等については、誤解のないよう丁寧に伝えている。緊急時の延命措置や看取り対応については、いつでも何度でも変更できることを伝えた上で同意書ももらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族のご意見、ご本人の困りごとを毎回お聞きして運営推進会議メンバーで共有をし、意見を出し合っている。議事録にてスタッフも共有している。	利用者、家族等の意見や要望は日々の現場や面会時等に都度聞いているほか、運営推進会議に利用者と家族が持ち回りで出席し、外部に対しても声を上げることができる体制を整えている。出された意見は記録に残し、会議やミーティングで情報共有して検討している。	

自己	者第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者共に働く中で考え、改めて聞き取る機会も設けている。意見や提案がしやすいよう心掛け、その都度改善を行いストレスの無い職場を目指している。	毎月開催するミーティングではパート職員も参加し、活発な意見交換が行われている。普段から現場に立つ代表者と管理者は真摯に職員の意見や要望に耳を傾け、運営や業務に反映している。理念の再検討や浴室の改装、利用者の好きな乳酸飲料の自動販売機の設置なども職員の意見がきっかけで実施された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在は代表者も管理者と共に松風に出勤することが多く、職員・入居者と話す機会を持ち、日々の関わりから、就業環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外部の研修を受ける機会を確保している。さらに毎月内部研修を行い学び・感想を提出してもらい、議事録としてまとめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加し、他事業所との交流と意見交換を行いサービスの向上に役立っている。同市の別グループホーム運営推進会議メンバーに入らせて頂き双方出席させて頂いている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は2名の方の新規ご入居あり。相談や面接時に、ご家族・ご本人の思いを少しでも多く聞き取り、新しい環境に安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前、ご入居後（面会時・電話等で）家族の思いを聞き取り、職員間で情報共有できるよう努めています。ご入居後のご様子は、ご家族様の状況にあわせ詳細にお伝えし、家族との連携・信頼関係の構築に努めている。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ一同で、ご本人、ご家族との信頼関係構築に努め、その中で必要な支援状況と、望んでおられる生活を勘案し、必要に応じて他のサービス利用も含め現状と今後の可能性を話し合っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフでご本人の生活歴を把握、意思を尊重することを共有し、自身で行えない部分をご本人の協力を得ながら支援していくことを基本にしている。日々の生活の中で、本人と共に支え合う関係が築けている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事も決定は「家族様の意見を聞いてから」としている。常に連絡ができています。また、ご入居者様のご様子を毎月のお便りで報告。面会時に日頃のご様子をお伝えする等、ご家族様と話す機会を持ち、思いや望まれていることをくみ取るようにしている。ご家族にも参加していただける行事を催しご家族とご利用者・職員の共有の時間が過ごせるように努めている。リモート面会ご希望される方には対応している。		
20				
(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方が老人会の記念品を届けて下さる。馴染みの方との面会にご家族了承上でしていただいている。気候のいい時期に馴染みの道を通りドライブに出かけた。	電話の取次ぎや、友人や知人の訪問も家族の承諾を得て実施している。地域出身の利用者が多く、職員とのドライブ外出では家の前や馴染みの道を通ったり、地域住民からレシピを教わり郷土の漬物づくりを楽しんだりする利用者もいる。職員のサポートで利用者の好きな歌手の歌番組をリビングや浴室でもネットで視聴している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のご利用者様の関係性を考慮し、交流できるように座席を配慮している。ご利用者様同士が交流できるよう職員が入ることもある。できないことを出来る利用者様がお手伝いをする等、支え合っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の援助者(相談員等)に対して詳細に書面・口頭でお伝えしている。契約が終了した後もご家族が夏にはスイカなどお持ちくださり、皆様と頂いた。		

自己 者第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティングにより、スタッフ全員で様子確認・アセスメントを行い、随時ご本人とお話することにより思いや意向を把握することに努めている。ご家族面会時にもお話を伺い希望や意向の把握に努めている。	入居前の聞き取りは丁寧に行ない、入居後は親密に会話を重ねることで意向の把握に努めている。マンツーマンでの対話時間を大切に、常に寄り添う姿勢を大切に支援している。管理者・ケアマネジャーの姿勢が全職員に浸透し実践されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一緒に畑仕事をしながら色々な野菜の植える時期タネをまく時期などを教えてもらいスタッフは勉強になっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様お一人お一人に職員それぞれが実施したことや、感じたことの情報を記録し、情報共有に努めている。実際食器洗いお盆拭き洗濯物干し廊下のモップかけ等、得意な方が活躍してくださっている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ報告等により、ご利用者様に合わせ随時検討、モニタリングを実施し、月1回はカンファレンスを行っている。また日々の小さな変化や気づきを申し送り職員で共有している。個人記録の初めに施設サービス計画書を綴じている。	月に1回のカンファレンスは全員出席できるよう配慮している。時間を要するが全職員の意見が集約され介護計画に反映できている。毎日の申し送り・モニタリングは職員が行い、情報共有している。6か月ごとのアセスメントも実施したうえで介護計画を更新している。ケアマネジャーは利用者のQOL(生活の質)が以前より低下していないかを特に大切にしている。	介護計画・モニタリング・担当者会議・アセスメントの一連の流れが途切れずに確認できる工夫が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤のスタッフにより、個別の記録の実施、申し送りノートを利用、様子の記録、気づきや提案を記録し、職員が情報を共有できるようにし、随時相談し、実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様からのその時々々の要望に応じた対応ができるように、取り組んでいる。		

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣スーパーマーケット・訪問歯科・美容院、行事の時には近隣店のお弁当など地域資源を活用している		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の要望を尊重し医療機関の選択をしていただいている。状況により必要な診療科目受診の場合はご家族に相談し判断している。受診の際には家族に同行依頼、医療機関に情報提供する等を行い滞りなく診察が受けれる様支援している。ご家族が同行で来ない場合にはこちらで対応している。	契約時、家族のほとんどが協力医への変更を望んでいる。皮膚科受診やペースメーカー定期検診などは家族が同行している。家族の都合がつかない場合には、事業所で同行支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約。状態観察を行い、日々の軽微な変化にも早期発見ができるよう努め、主治医に随時連絡・報告・相談し適切な受診、看護・介護が受けれるよう指示を仰いでいる。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、同席し口頭にてご本人の状況を伝えるとともに、情報提供書にて情報の提供を行っている。入院中にはご家族・地域医療連携室と連携を取りながら退院後の生活に支障がないように取り組んでいる。	入退院時とは地域連携室との情報交換を密に行い早期退院に向けて尽力している。入院事例はごく少ないが必要に応じて情報提供書を提供するなどの対応をしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化し状態に変化があった場合はホームで出来ることを検討し、ご家族に状況とホームで出来ることを説明し理解いただいている。主治医にも報告し連携を図っている。	重度化・看取りに関する指針がある。契約の際に丁寧に説明しており、その時点での家族の意向確認もおこなっている。家族からの主治医への相談や説明は、随時受けられる事を伝えている。看取りに際しての職員のメンタルケアを兼ねての振り返りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時に対応出来る様、マニュアルを作成しスタッフと共有している。		

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、ご入居者も参加し緊急時の対応に繋がられるよう取り組んでいる。今年度は有安区長の参加もあった。火災時には緊急事態であることが地域に伝達できるようサイレンを設置している。災害に備え保存食(食料・水)を備蓄している。	BCPが策定されている。消防署主導による避難訓練が年2回実施されている。水消火器の使用なども実施している。今年度は地区長の参加もあった。火災時の緊急事態を知らせるサイレンが設置がされている。近隣住民の参加は実現していない。災害備蓄品は3日分確保されており、期限管理は管理者が行っている。	運営推進会議の場を通じて、近隣住民の訓練参加の呼びかけを工夫することが望まれます。(備蓄品の試食や水消火器の使用など)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の性格や生活歴をスタッフそれぞれが考慮し、人としての尊厳を尊重した対応や声掛けを行っている。必要に応じ席替えを行い入居者様が穏やかに過ごせるよう支援している。	「利用者がどのような気持ちで生活しているだろう？」を大切にしている。常にゆったりと寄り添う姿勢で話しかけ、スキンシップも積極的に実践している。自立に近い利用者や、できることの見極めができて利用するには、家事などもどんどん依頼し、にぎやかに忙しく過ごせるような支援を工夫している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者とのコミュニケーションを常に努めることによりご本人の希望や思いを聞き取り、好み等を少しでも多く把握できるよう努め、ご自分で決めれることを増やせるように心がけている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者様の立場になり、職員都合の支援にならないことに努め、その人らしい生活が送れるようご利用者に意思決定していただけるように努めている。居室で過ごしたい方は居室で過ごして頂いている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様には訪問理美容サービスを利用した頂き、希望に応じた髪型にした頂いています。毎回毛染めを希望される方にも対応して頂いている。毎日着る衣服の選択もして頂いている方もある。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の状態に合わせ、調理・配膳・下膳・片付けを行ってもらい、コロナ禍前までは昼食は職員も一緒に食事をとり、楽しい食事に配慮している。また1日の献立をホワイトボードに書き話題にし、食事が楽しみになるようにしている。行事の時はお弁当、クリスマス会には給食業者によるにぎり寿司・天婦羅の実演提供をした。	調理・配膳・下膳・片付けなど利用者のできることを提供している。菜園でとれた野菜や差し入れのあった食材なども利用している。献立をホワイトボードに書き、話題にすることで、食事が楽しみになるようにしている。お弁当、クリスマス会には給食業者によるにぎり寿司・天婦羅の実演など、バラエティーに富んだ楽しみを提供できている。	利用者主体で手作りでできる、簡単なおやつ作りなどを定期的に取り入れることが期待されます。

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の好みや体調管理を顧慮し、飯食を決定。水分量についても摂取量の少ない方や水分制限のある方は特に留意し、摂取量を記録することで把握している。嗜好に合わせたものを提供し、適量摂取できるよう努めている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導を受け、各自の計画を作成し、毎食後ご本人の出来ない部分を援助しながら、個々に応じたブラシを使用してケアしている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様全員に対して、トイレでの排泄を基本としている。排泄記録をつけることで、個人の排泄パターン・習慣を理解するよう努めている。利用者に合わせて声掛けをし誘導等必要な援助を行っている。	利用者一人ひとりに応じた声掛けが適切になされており日中のパッド汚染が顕著に減っている。ポータブルトイレ利用者は1名で衛生管理を支援している。夜間おむつ対応者は3名いる。夜間巡視は3時間毎に実施しており、パッド汚染は相当数認められているが皮膚状態については特に問題なく経過している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様全員の食事量・水分量を記録し、水分量の確保と、運動量が確保できるよう支援している。それでも排便見られないときは、医師の指示のもと緩下剤を使用。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回実施している。(水虫の方の足浴:毎日実施、皮膚状態、汚染等により追加での入浴は行っている)。重ならないよう一人ずつ、ご利用者様のタイミングで入浴できるよう支援している。こどもの日には菖蒲湯を用意したり、季節を楽しむ工夫をしている。	最近、浴室がリニューアルされ快適な環境が確保されている。入浴中にBGMで好きな音楽を流すこともできている。週に2回の入浴が確保されている。午前・午後の入れ替えなどは時折あるが、利用者は入浴そのものを楽しみにしている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様おひとりお一人のペースに合わせて、過ごしていただき、ご本人の好みに応じた寝具等を準備し環境を整えている。昼寝の必要な方は、夜間に支障ない程度で寝ていただいている。		

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ各自が理解できるよう薬情報をファイルしており、薬の変更があった時には情報共有し、特に注意して様子観察を行うようにしている。配薬時と投薬介助時の二度確認し誤薬のない対策をしている。服薬時には個々に合わせた介助を行っている。飲み込みにくい方は粉碎していただいている。三木市在宅支援薬局に支援して頂いている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族からの情報を聞き取ったり、日々の生活の中で知り得たことやレクリエーションを通じて発見したことなど、職員間で情報を共有し、ご利用者が役割を果たせたり、楽しみとなるよう取り組んでいる。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、庭に出て、お散歩し、外のベンチに座ったり、畑に出たり、敷地内・外で外気に触れる機会を設けている。月に1度は全員で外出する機会を設けている。ご家族の協力での個別の外出の機会も設けている。	近隣スーパーへの買い物など、機会をとらえて積極的に外出支援をしている。車いすの利用者と共に独歩の利用者は買い物を楽しめている。家族の協力で、田植えの時期には自宅へ戻ったりしている。事業所周りは広大な敷地の中、ヤギの飼育や菜園での収穫・草花の手入れなどで、自然に触れ合える環境である。地区のイベント参加の機会も増やす予定がある。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍前までは外出して買い物の機会を設けていたが、現在は中止。玄関の自動販売機で好きな飲み物を購入していただいたりしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りの出来る支援体制はあるが実施されていない(家族様、知人からのお手紙等はある、ご本人に渡している)家族・知人からの電話はコードレス電話を利用しプライバシーに配慮し対応している。		

自己	者第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾物や制作物を飾ったり、花植物で季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるようソファの設置を考慮したり、BGMを流すなど配慮している。スタッフと共に事務所に入っ てこれ、	玄関横のリビングは採光がよく、ゆったりとした環境で解放感に溢れている。変形の机やソファが複数置かれており、状況に応じてレイアウトが自在に変更できるようになっている。ピアノを弾く利用者もあり、穏やかな笑顔が満ち、歌声が響く日常を垣間見れた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつも仲良くされている方が士が会話できるよう配慮しています。ソファでテレビを見たり、ソファで横になったり、自由に過ごされている。皆さんリビングで過ごされることが多い。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	松風ご入居前に御自宅で使っておられた使い慣れ、馴染みのあるダンス、ベッド、調度品等を持参いただけたようご家族に依頼している。三味線を持ってこられており、練習をされています。職員も経験者がおり、一緒に楽しんでおります。	配偶者や家族の写真、趣味の作品・カードなどが飾られている。居室の中にはクローゼットがないが事業所管理で衣類等を預かる仕組みにしている。使い込まれた整理ダンスなどは動線を考慮して配置されている。各居室は日当たりがよく外の景色もよく見渡せる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりに合わせた居室の表札を工夫し作ったり、トイレ等の場所がわかりやすいように工夫している。身体状況に合わせて居室内のレイアウトを変えている。ご家族がお持ちいただいたお写真やお手紙を飾らせて頂いたり、壁にエクササイズのポスターを貼り、運動されている。		

(様式2)

事業所名:グループホーム松風

目標達成計画

作成日: 令和7年4月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4(3)	運営推進会議に曜日等の関係で参加されていないご家族がおられる。スタッフが参加していない。	全員のご家族が参加できる。 スタッフも参加して現場の意見も出し合う。	出席できないご家族には送付する。 曜日の変更を検討する。 スタッフも順に参加する。	12か月
2	6(5)	身体拘束廃止委員会での研修レポートの提出は出来ているが、そのままになっている。	全職員が身体拘束をしないケアを理解し、モチベーションをあげて取り組むことが出来る。	研修後の提出物を議事録にまとめ、職員で話し合いの場を設ける。	4か月
3	26 (13)	介護計画・モニタリング・担当者会議・アセスメントの流れでファイルが整理できていない。	ファイルの中で一連の流れが確認できる。	ファイルの中で続けて確認できるように9名のファイルを整理する。	2か月
4	35 (17)	備蓄品の品数不足である。	近隣住民の分も考え、備蓄品の量を増やす	備蓄品を購入し、消費期限確認担当者を決めて消費・補充を行う。	2か月
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	☐	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐	②利用者へサービス評価について説明した
		☐	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
			⑤その他()
2	自己評価の実施	☐	①自己評価を職員全員が実施した
		☐	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
			⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☐	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
			③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☐	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
			⑤その他()